

1. 実況上の着目点

① 寒冷渦の直下に入りつつある低気圧がオホーツク海に、台風第27号から変わった低気圧がカムチャツカの東にあり発達中。これらの周辺では風が非常に強く、北日本でもやや強い風を観測。一方、リッジ対応の高気圧の中心が黄海から日本海へ移動。その周辺部の東～西日本太平洋側や南西諸島では、高気圧の張り出しにより北寄りのやや強い風が続いている。台風からのうねりと風浪が重なり、北日本を中心に太平洋側と南西諸島で、引き続きうねりを伴い波の高い所が多い。



主要じょう乱解説図

② 寒気を伴うトラフが北～西日本を通

過したが、6日からの下層寒気移流の影響で7日21時の各地のエマグラムでは700～850hPaに沈降性逆転層が下がっている所が多く、陸上では対流雲の発達はない。逆転層より下が湿っており低い雲がかかっている所が太平洋側や南西諸島の一部にあるが、逆転層より上は顕著な乾燥気層が広がっている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧の中心は、9日から10日にかけて日本の東を遠ざかるが、本州付近は10日にかけて、スケールが大きく、かつ背が高いこの高気圧に覆われ晴れる所が多い。
- ② 高気圧の北縁にあたる北海道地方の北側では、8日は1項①の低気圧の南西側となって下層寒気が南下傾向となるのに対し、南側では、高気圧からの風が続いて下層で収束が強まり、9日には温度集中帯に対応する気圧の谷が顕在化する。対流雲の発達はない見込みだが雲の広がりには留意。また、これに伴い気圧の傾きが大きくなる北海道地方では9日にかけて、強風に注意。
- ③ 高気圧の南縁では気圧の谷が西進するが、高気圧の西側となる9日には下層暖湿気が南西諸島から九州付近に北上するとともに、500hPa 5820～5880mで-9～-6℃の寒気を伴うトラフが大陸から東シナ海に進んでくるのに伴って、大気の状態が不安定となる所がある。九州南部や南西諸島では9日から10日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ④ 8日は広い範囲でうねりが残って北日本を中心に太平洋側と南西諸島では高波が続く所がある。また、高気圧の南縁では気圧の傾きが大きく、やや強い風が広い範囲で続いて波が高くなる所がある。さらに9日には、南鳥島近海から日本の東に進む台風第28号周辺からのうねりが到達し始め、10日には再び波が高くなる所がある。北日本では8日は、東～西日本の太平洋側と南西諸島では10日にかけて、うねりを伴う高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。台風第28号の最大風速の予報はGSMよりも弱く、10日の高波について波浪モデルの波高を補正する必要がある。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：北海道・沖縄・小笠原4、その他日本海側を除いて広く3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。